

2009年12月3日

各位

人類学研究所  
所長 渡邊 学

人類学研究所 シンポジウム開催のお知らせ

下記のとおりシンポジウムを開催いたしますのでお知らせいたします。  
ご多忙中とは存じますが、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

記

日時:2009年12月19日(土)10時~17時  
場所:南山大学名古屋キャンパス 人類学研究所 1階会議室  
テーマ「21世紀アジア社会の人類学:回顧と展望」

シンポジウムの趣旨

文化人類学において社会研究は、とくに家族・親族研究を中心として1970年代までもっとも重要な研究分野をなしていた。むろん、その後も社会組織・社会関係の研究の重要性が失われたわけではないが、かつての中心であった家族・親族についての研究はどちらかといえば縮小していき、むしろ情報化・グローバル化の中で、従来とはまったく異なる社会組織、社会関係があらわれ、社会生活において大きな役割を果たしてきている。

本シンポジウムでは、このような現状をふまえて、東アジア、東南アジア、南アジアの社会研究における第一線の研究者をお招きし、大きく変貌するアジア諸社会についての現状認識と、これを文化人類学的に研究するための方法について議論し、この分野の研究に対する文化人類学の果たすべき貢献やその可能性について議論を深めることを目的としている。このシンポジウムにより、現代アジア諸社会に関する文化人類学的研究のさらなる進展の可能性が示されることを期待したい。

10:00	開会挨拶	渡邊 学 人類学研究所長
10:05	趣旨説明	アントニサーミ・サガヤラージ 南山大学専任講師(コーディネーター)
10:15	総論	杉本星子・京都文教大学教授
10:50-11:40	南アジア・スリランカ	高桑史子・首都大学東京教授
11:45	昼食休憩	
13:10-14:00	東アジア・台湾	三尾裕子・東京外国語大学 AA 研教授
14:10-15:00	東南アジア・タイ	速水洋子・京都大学教授
15:10-15:50	コメント	田中雅一・京都大学教授、 吉田竹也・南山大学准教授
16:10	総合討論	司会 坂井信三・南山大学人文学部長
17:00	終了	
*	発表 30 分間、質疑応答 20 分間、合計 50 分間。コメントは各自 20 分間、合計 40 分間。	

以上

\*参加費:無料

\*会場席数に限りがございますのでできるかぎり事前にご連絡をお願いいたします。

以上

人類学研究所(所長:渡邊 学)

〒466-8673 愛知県名古屋市昭和区山里町 18  
南山大学名古屋キャンパス内  
e-mail : nirc@ic.nanzan-u.ac.jp  
phone : 052-832-3111 (内線 3453) fax : 052-833-6157